

「未来の奄美市づくり計画」(抜粋)

1. はじめに

- 2008年から我が国は人口減少局面に入り、今後も減り続ける推計がされています。
- 奄美の自然は世界の宝であり、私たちの生活や文化も価値があるものです。
- 未来に向けて周りにあるものの価値を認識し、皆で高め、強みを発揮するための計画であり、未来の奄美市づくりに向けて、市民一人ひとり、企業・団体、奄美市役所が皆で奄美市の課題解決と持続的な成長を実現するための、大きな方向性を示す計画です。

2. 奄美市の各地区の特徴・魅力

- 「都市と集落が融合し、生活の便利を満たす**名瀬地区**」

名瀬地区は、国や県の官公庁が立地されるほか、いろいろなお店が集まる中心商店街もあり、政治・行政、産業、医療福祉などの機能がコンパクトに集約しながら発展してきました。また、天然の良港である重要港湾名瀬港を起点に、みなとまちとして栄え、近年では外国クルーズ船の寄港や、名瀬港マリンタウン地区が整備されています。これら名瀬市街地に加え、交通環境の整備によりアクセスも改善されている「上方・下方・古見方」の3地区は、集落独自の文化や暮らしぶりも残しており、名瀬地区の多様性を彩っています。



- 「世界自然遺産の山々に抱かれ、山河とともにくらす**住用地区**」



住用地区は、奄美大島の中心に位置し、生物多様性を誇る世界自然遺産の山々に囲まれ、その山々の豊富な水源からなる住用川・役勝川など、水と森を身近に感じられる自然、そしてそこに14集落の人々の暮らしが合いまって生み出される文化が魅力です。さらに、奄美大島世界遺産センターも整備され、自然・文化の体感拠点として、住用地区はこれから新たな成長期を迎えようとしています。

- 「キビ畑と美しい海岸線コントラスト 古の歴史・文化を守り受け継ぐ**笠利地区**」

笠利地区は、天孫降臨阿(あ)麻美(まみ)姑(こ)の神話から、先史時代の島の生活を示す多くの遺跡、夏の月影に映える八月踊りの風景など、奄美市内でも歴史と文化が色濃く残る環境が魅力です。また、奄美大島の空の玄関である奄美空港があり、着陸に向かう飛行機の窓から眺めるサトウキビ畑と様々な青のコントラストを見せるリーフ広がる海岸線は、奄美を象徴する風景として多くの人々を出迎えています。農業や観光リゾートの拠点としての位置づけに加え、住民一人ひとりの文化継承の意識が高く、集落民が互いに支え合う生活を営む29の個性豊かな集落で構成される笠利地区は、多くの人々を引き寄せる魅力にあふれています。



3. 奄美市全体として共有する魅力

- 実感できる「人とのつながり」
- 受け継がれてきた「自然と文化、歴史」
- 都市と集落が生み出す「まちの多様性」

4. 長期的な政策の方向

奄美市が目指す将来像

自然・人・文化が紡ぐ しあわせの島

～自然もひとも多様性を尊重し合える なつかしい未来都市 奄美市～

5. 奄美市が抱える課題

- 「くらしの課題」
①子育てなど新たな価値観への対応②生活の質の向上③住まいの不足
- 「しごとの課題」
①経済活動の活発化②働く環境③チャレンジできる環境
- 「つながりの課題」
①集落・地域の維持、活性化②地域における孤立③官民の対話とコミュニケーション

6. 政策の基本的な考え方

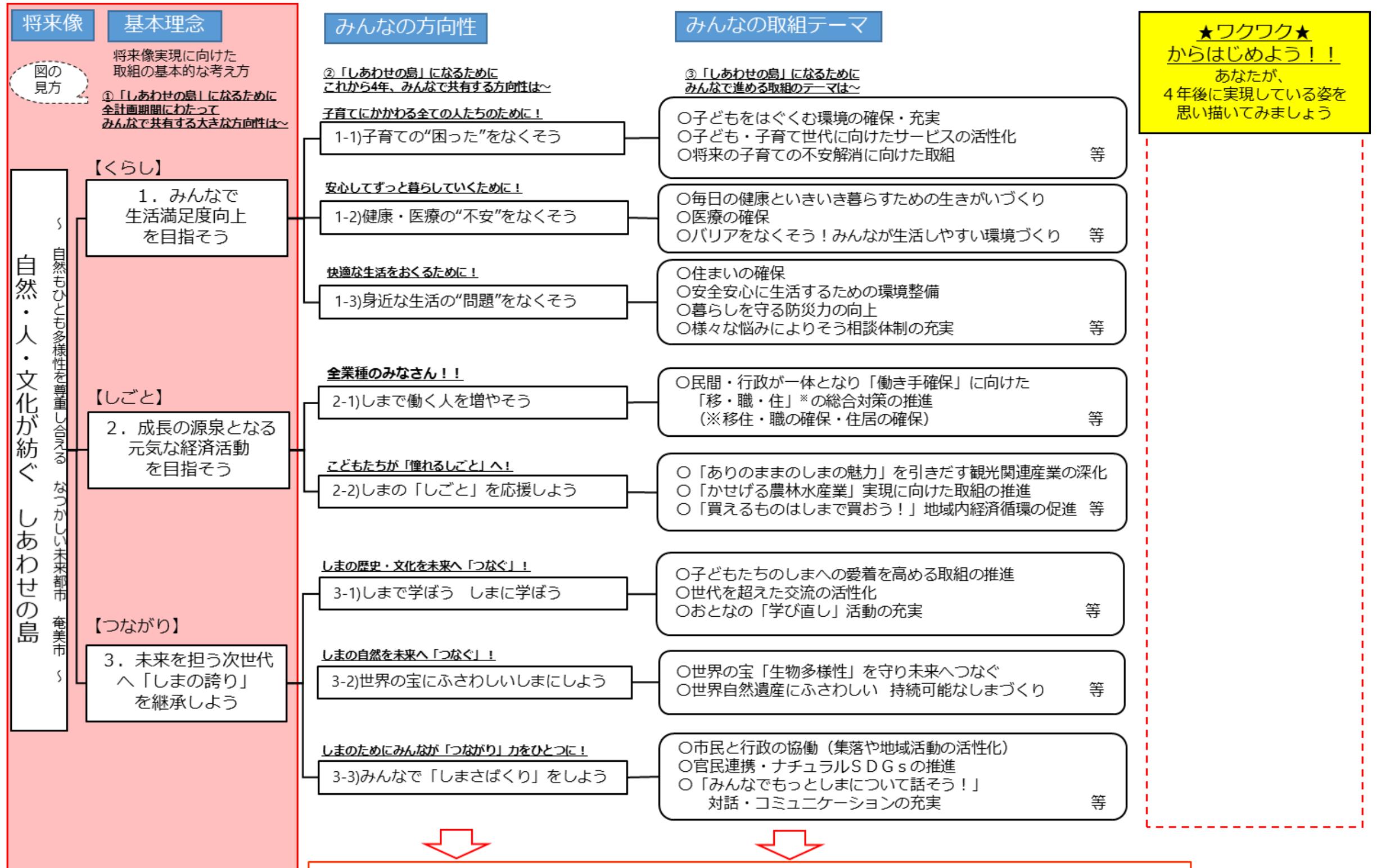
- みんなで生活満足度向上を目指します。
- 成長の源泉である元気な経済活動を目指します。
- 未来を担う次世代へ「しまの誇り」を継承することを目指します。

○短中期で取り組むべき施策の方向

この計画をつくるため、多くの市民の皆様と市役所職員が一緒になって、今後の4年間（令和6（2024）年度から令和9（2027）年度まで）に取り組むべき事柄をまとめました。

今後、みんなでこの思いを共有して、一人ひとりができること、企業団体ができること、行政がすべきこと。みんなで力をあわせて取り組んでまいりましょう。

取組の一覧表（体系図）



（計画全期間にわたり掲げる）

○各テーマでのみんなができる取組の「例」

ここからは、みんながそれぞれできることの事例を記載します。ご自身の生活や企業活動の中で取り組むことができることもあると思いますので、一つひとつ実践していきましょう。

みんなの取組1－1：子育ての“困った”をなくそう

| 主体 | できること（すべきこと）の具体例 |
|----------------|--|
| 私ができること | ・“困った”を一人で抱え込まないで親や近所、行政に相談を ・奄美市の「まーじん子育て応援団」サイトを見よう ・知り合いと、病院など子育てに役立つ情報を共有しよう ・子を持つパパ・ママをやさしく見守ろう 等 |
| 企業団体が できること | ・産休・育休取得の推進及び復職後のキャリアデザイン充実に取り組もう ・リモートワークなど働きやすい環境を整備しよう ・子育て関連のサービスを創出・提供しよう ・子どもを預けることができる場を作ろう ・親子の居場所として屋内施設の利用を促進しよう 等 |
| 行政がすべき こと | ・待機児童の解消に向けた取組を行う ・子どもの遊び場としての公共施設の有効活用 ・子育ての“困った”を相談しやすい環境づくり 等 |

みんなの取組1－2：健康・医療の“不安”をなくそう

| 主体 | できること（すべきこと）の具体例 |
|----------------|--|
| 私ができる こと | ・検診を受けましょう（早期発見・早期治療） ・一日一度の外出、会話を心がけましょう ・お酒とは上手におつきあいしましょう ・趣味、いきがいをつくりましょう 等 |
| 企業団体が できること | ・社員には健康診断を受けてもらいましょう ・健康経営をしましょう(歩け歩け月間等イベント方式で実施) ・地域医療の新しいあり方を議論しましょう ・店舗等のバリアフリー化を進めましょう 等 |
| 行政がすべき こと | ・健康検査の受診推奨及び普及啓発 ・健康に関する情報発信 ・県や関係団体と一緒に医療の確保に向けた検討 ・移動手段の確保 等 |

みんなの取組1－3：身近な生活の“問題”をなくそう

| 主体 | できること（すべきこと）の具体例 |
|----------------|--|
| 私ができる こと | ・ごみ出しマナーを守ろう ・地域のために空き家を使おう ・ボランティア活動に参加しよう（通学見守り・公園清掃など） ・災害に備えよう（避難場所の確認や食べ物準備など） 等 |
| 企業団体が できること | ・快適な暮らしへむけたサービスを提案しよう ・空き家の市場流通に取り組もう ・こどもの見守りを職場でもできるよう検討しよう ・自主的に防災活動へ取り組もう 等 |
| 行政がすべき こと | ・社会インフラ（道路・上下水道・情報通信・公共交通など）の維持・向上 ・空き家対策の推進 ・子どもたちが安全に遊べる公園の整備・改修 ・市民・関係団体一体となった安全・防災・減災の仕組みづくり ・様々な相談ができる体制の充実 等 |

みんなの取組2－1：しまで働く人を増やそう

| 主体 | できること（すべきこと）の具体例 |
|----------------|---|
| 私ができる こと | ・「しまには仕事がない」と言うのは、もうやめましょう ・子や友達に「しまに帰ってこい」と呼びかけましょう ・羨ましがられるくらい、しまの「楽しい」を発信しましょう ・楽しく働きましょう 等 |
| 企業団体が できること | ・給与環境・就業環境を向上させましょう ・島外での求人活動にもチャレンジしましょう ・社員住宅の確保など福利厚生を充実させましょう ・行政と連携した業界イメージ向上に向けた情報協力をしましょう ・多様な働き方を導入しましょう（短時間ワークや複業） |
| 行政がすべき こと | ・求職・求人のマッチング支援 ・各業界の就業環境改善の取組などの情報発信 ・空き家活用を含めた住宅確保や資格取得への支援 ・複業制度の研究 等 |

みんなの取組2－2：しまの「しごと」を応援しよう

| 主体 | できること（すべきこと）の具体例 |
|----------------|--|
| 私ができる こと | ・地元のお店の良さを発信しよう ・おすすめの食材・料理、観光スポットを発信しよう ・しまで買えるものはしまで買おう 等 |
| 企業団体が できること | ・住民に愛されるお店づくりに取り組もう ・リピーターづくりに向けたサービス向上・拡充に取り組もう ・農林水産物・特産品・加工品の付加価値向上に取り組もう ・国内外からの積極的な誘客と販路拡大に取り組もう ・異業種同士の交流活性化に取り組もう 等 |
| 行政がすべき こと | ・ビジネスマッチングの推進による人材確保の支援 ・行政の強みを活かした産業活性化支援 ・企業、若者などがチャレンジできる環境整備 ・地域ぐるみのデジタル化の推進 等 |

みんなの取組3－1：しまで学ぼう しまに学ぼう

| 主体 | できること（すべきこと）の具体例 |
|----------------|--|
| 私ができる こと | ・（子ども達）・学校で学んだことを家族に教えよう(会話) ・自分の家の歴史について調べてみよう ・（大人達）・改めて学び、体験をする機会へ参加しよう ・自分が住んでいない地域の文化についても体験しよう ・（みんな）・地域行事へ参加しよう ・自分が考えるしまの誇りとして即答できる答えを持とう |
| 企業団体が できること | ・しまの歴史・環境文化を学ぶ場を創出しよう(研修) ・行事、大会へ企業として参加しよう ・多世代交流イベントを開催しよう ・季節、文化に合わせたイベントを開催しよう ・職場体験を開催しよう 等 |
| 行政がすべき こと | ・ふるさと教育の推進（学校・地域・家庭等） ・学校現場での多世代交流の場の創出(地域と一緒に) ・生活に根付いた風習について学ぶ手段・場所の確保(情報発信) ・地域(自治体)を超えた学習環境の創出 ・企業団体が実施するイベント等への支援 等 |

みんなの取組3－2：世界の宝にふさわしいしまにしよう

| 主体 | できること（すべきこと）の具体例 |
|----------------|---|
| 私ができる こと | ・島のことを知ることから始めよう ・ペットは最後まで飼いましょ ・省エネ家電への切替など環境に優しい暮らしを心がけよう ・市民清掃に参加しよう・ごみのポイ捨てはやめましょう 等 |
| 企業団体が できること | ・清掃活動や外来種駆除などに取り組ましましょう ・講師を招いての生物多様性などの勉強会を開催しましょう ・省エネ設備への更新など脱炭素に向けた取組を行おう 等 |
| 行政がすべき こと | ・世界自然遺産についての広報・PR ・自然を守るための制度や仕組みづくり ・誰でも参加できる外来種駆除の取組の支援と実践 ・学校や集落で生物多様性に関する講座を開く ・個人や企業の脱炭素への取組支援 等 |

みんなの取組3－3：みんなで「しまさばくり」をしよう

| 主体 | できること（すべきこと）の具体例 |
|----------------|---|
| 私ができる こと | ・子や孫に昔話をしよう ・親や祖父母の小さい頃のしま(学校や遊び)について聞いてみよう ・地域活動を楽しいものにしよう ・しまの中で自分が好きなモノ・コトを持とう ・地域行事に参加して自分のしまについて学ぼう ・アンケートに協力して自分の想いを伝えよう ・私(個人)ができるSDGsに取り組もう 等 |
| 企業団体が できること | ・しまの文化を取り入れた独自行事を創出しよう ・自社の強みを行政の弱い部分に活かそう（官民連携） ・自社の強みを生かせるSDGsへ取り組もう(導入) ・しまにおける自社の歴史・役割を学ぶ場を創出しよう ・しまの風景を次世代へ残していこう 等 |
| 行政がすべき こと | ・市民、企業との対話の場の創出(Face to Face) ・インターネットを活用した意見の集約 ・公共施設の開放による集う場所の提供 ・市民や企業団体が持っているアイデアへの支援・活用 等 |



～しあわせの島へ～ 奄美市『未来づくり』総合戦略2025（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の概要

I 総合戦略の策定にあたって

- 奄美大島を「しあわせの島」とする思いから、奄美市は2015年度に地方創生の取り組みを始め10年が経ち、環境は大きく変化しました。
- 世界自然遺産に登録された奄美大島の自然環境は貴重な資源であり、これを次世代に受け継ぐことが重要です。
- デジタル化の進展や地方移住への関心も高まっているものの、全国的に人口減少が進んでおり、地域の人手不足や産業縮小が懸念されています。
- この問題に立ち向かうために、行政、市民、企業がそれぞれの役割を考え、協力して取り組む必要があります。
- 「しあわせの島」を実現するために、行政の施策や民間の動きを促進する新たな3カ年計画「しあわせの島へ～奄美市『未来づくり』総合戦略2025」を策定しました。

II 戦略の位置付けと計画期間 計画期間：令和7年度～9年度（3カ年）

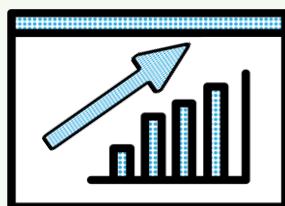
- 奄美市総合計画『未来の奄美市づくり計画』で目指す将来像「自然・人・文化が紡ぐ しあわせの島」を実現するための重点プロジェクト。
- 戦略に基づく取組は、行政がすべきことや民間企業の活動を促進していくほか、市民一人ひとり、企業や団体、奄美市役所が主体的に取り組む内容についての意見交換などをおして充実を図っていきます。

III 政策の方向と数値目標

戦略の目標

未来計画で「人口の減少」が最も重要な課題として位置づけていることや「奄美大島人口ビジョン2025」の目指すべき取組の方向性を踏まえ、戦略の4つの目標を定めています。

| 戦略の目標 | 数値目標(KPI) | 基準値 | 目標値 |
|------------------------|-------------------|-------------------------------|--|
| 1 社会動態をプラスにする！ | 社会動態(転入－転出) | △132人 (H29～R4年の平均増減数) | +1人 (計画期間3年平均増減数) マイナスからプラスへ！ |
| 2 子育て世代を増やす！ | 25～49歳の人口 | 10,339人(R5) 9,258人(R9将来推計) | 9,657人(R9) 将来推計を399人上回る！ |
| 3 出生数を増やす！ | 出生数 | 261人(R5) 228人(R9将来推計) | 245人(R9) 将来推計を17人上回る！ |
| 4 人口減少に対応できる しまづくり！ | 企業におけるデジタル化の取組割合 | 58%(R6) | 70%(R9) |
| | デジタルを活用した庁内業務削減時間 | 2,500h(R6) | 4,800h(R9) |



「未来づくり」総合戦略2025は右のQRコードからご覧いただけます。





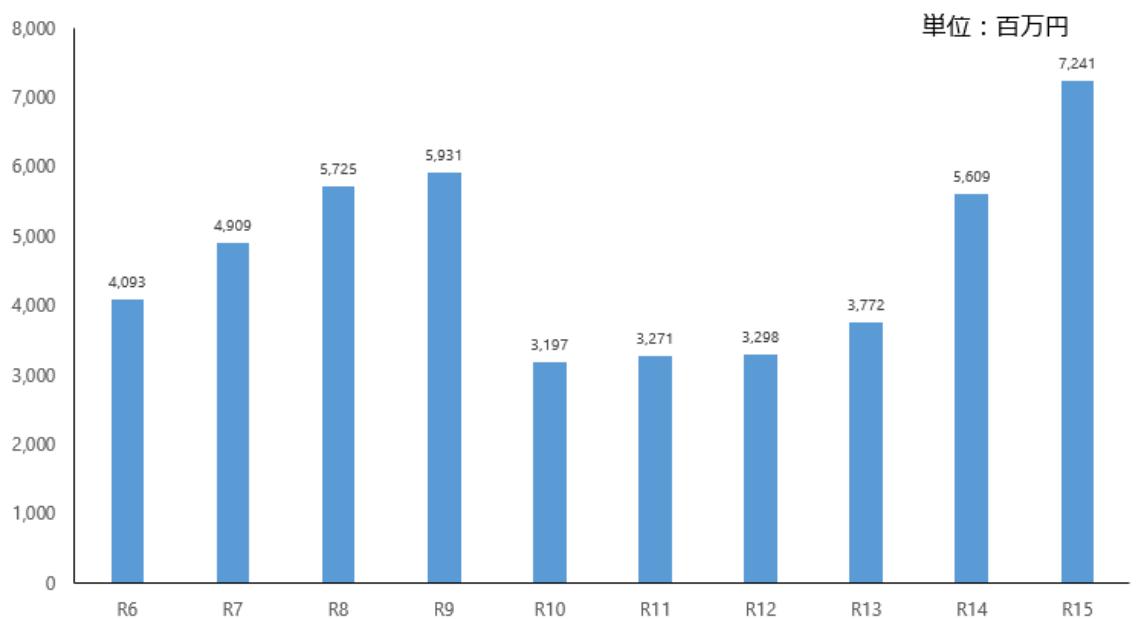
～しあわせの島へ～ 奄美市『未来づくり』総合戦略2025（まち・ひと・しごと創生総合戦略）の概要

IV 施策の方向と数値目標

| 基本目標 | 基本的方向 | 具体的な施策 | 数値目標(KPI) | 基準値 | 目標値 | |
|--|---|----------------------------------|--|--|---|----------------------------------|
|  基本目標Ⅰ 「みんなで生活満足度向上を目指します」 | ①子育ての“困った”をなくそう | (1)地域における子育て支援の充実 | 奄美市における子育て環境や子育て支援への満足度 | 34.7%(R5) | 52%(R9) | |
| | | (2)親子の心とからだの健やかな成長を支える取組の推進 | この地域で、今後も子育てをしたい人の割合 | 92.8%(R6) | 95%(R9) | |
| | | (3)支援を必要とする子どもや家庭を支える取組の推進 | 子育てをする上で気軽に相談できる人や場所のうち公的機関を選択する人の割合 | 10.2%(R5) | 30%(R9) | |
| | | (4)みんなにやさしい“子育てのしま”づくり | 奄美市における子育て環境や子育て支援への満足度 | 34.7%(R5) | 52%(R9) | |
| | ②健康・医療の“不安”をなくそう | (1)市民主体の健康づくりの推進 | 日常生活動作が自立している平均自立期間 | 平均自立期間(R2): 男性77.4歳、女性83.6歳 平均寿命(R2): 男性79.2歳、女性87.4歳 | 平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加(R12) | |
| | | (2)健康を支え合う地域づくり | ふだんから家族や友人と付き合いがある人の割合(75歳以上の高齢者) | 男性:96.0%、女性:98.8%(R5) | 男性:97.0%、女性:99.0%(R9) | |
| | | (3)医療の確保 | 一般診療所数 | 34施設(R6) | 34施設(R9) | |
| | ③身近な生活の“問題”をなくそう | (1)定住促進による活気のあるしまづくり | 本市施策を活用した移住者数 | 222名(R2年度末からの累計)(R5) | 422名(R9年度末累計)(R9) | |
| | | (2)暮らしを守る防災力の向上 | 自主防災組織数 | 81団体(R6) | 84団体(R9) | |
| | | (3)持続可能な地域公共交通体系の構築 | 公共交通の利用者数 | 666,472人(R5) | 699,796人(R10) | |
| |  基本目標Ⅱ 「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」 | ④しまで働く人を増やそう | (1)民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」の総合対策の推進 | 従業者数 | R3経済センサス実績値 15,846人(R3) R5将来推計人口から奄美市が予測する従業員数14,868人(R9) | 14,963人(R9) |
| | | | (2)地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり | 観光消費額 | 71,808円(R5) | 77,900円(R9) |
| (3)多様な働き方の推進 | | | 有収益の子育て・副業フリーランス数 | 10名(R2～R5) | 30人(R7～R9) | |
| (4)しまの魅力発信の充実 | | | 島外の人材確保に向け求人活動を行う企業数(年間) | 21社(R5) | 30社(R9) | |
| ⑤しまの「しごと」を応援しよう | | (1)「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の進化 | 観光満足度 | 48.5%(R5) | 68.7%(R8) | |
| | | (2)「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進 | 認定農業者数 青年等認定新規就農者数(年間) | 76名(R5) 10名(R5) | 80名(R9) 10名(R9) | |
| | | (3)チャレンジできる環境整備 | 新規創業件数 | 14件(R2) | 20件(R8) | |
| | | (4)デジタルを活用した社会課題解決 | 企業におけるデジタル化の取組割合 | 58%(R6) | 70%(R9) | |
| | | (5)誰もが情報を暮らしに活かせるしまづくり | LoGoフォーム(オンライン申請)受付件数 | 25,970件(R6) | 40,000件(R9) | |
|  基本目標Ⅲ 「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」 | | ⑥しまで学ぼう しまに学ぼう | (1)未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進 | 学力の定着・向上が図られた学校数及び割合 | 小学校:13校(62%)(R1) 中学校:9校(75%)(R2) | 小学校:15校(71%) 中学校:10校(83%)(R7) |
| | (2)信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 | | 地域人材を活用した体験活動を実施した学校の割合 | - | 100%(R9) | |
| | (3)地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進 | | 奄美の良さを実感している児童生徒の割合 | 小6:95%(R2) 中3:94%(R2) | 小6:100%(R7) 中3:100%(R7) | |
| | (4)生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興 | | 生涯学習講座受講者数 | 2,424人(R1) | 3,500人(R7) | |
| | ⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう | (1)世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ | アマミノクロウサギのロードキル(轢死)発生件数(奄美大島) | 147件(R5) | 73件(R10) | |
| | | (2)世界自然遺産にふさわしい持続可能なしまづくり | ごみの再資源化率 | 7.2%(R4) | 9%(R9) | |
| | ⑧みんなで「しまさばくり」をしよう | (3)世界自然遺産についての広報・PR | 世界自然遺産に関する講座等の開催数(年間) | 41回(R5) | 45回(R9) | |
| | | (1)集落や地域活動の活性化による地域づくり | 町内会・自治会の設置数 | 109団体(R6) | 110団体(R9) | |
| (2)マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決に向けた体制構築 | | 奄美市SDGs推進プラットフォーム会員数 | 75件(R5) | 100件(R12) | | |
| (3)男女共同参画社会の形成の推進 | | 「社会通念・慣習・しきたりなど」で男女平等であると感じている割合 | 14.4%(R2) | 20%(R14) | | |
| (4)大学等との連携による関係人口の創出や「知」の還元 | | 包括連携協定を締結している大学等との連携した取組件数 | 12件(R5) | 16件(R9) | | |
| (5)「奄美大島共同キャンパス」の具体化 | | ゼミ合宿の延べ宿泊者数 | 39人泊(R5) | 75人泊(R9) | | |
| (6)公共施設の再編と活用 | 施設の保有面積 | 375,660㎡(H27) | 356,877㎡(R7) | | | |

1. 普通建設事業のシミュレーション（※現時点での想定）

○老朽化した公共施設の更新などのため、大規模な改修事業・新設事業が見込まれる。



2. 普通建設事業のシミュレーション

○今後（令和7年度以降）予定されている大型事業

| 事業名 | 事業費 |
|-------------------|-----------|
| 住用地区認定こども園整備事業 | 5.4億円 |
| 笠利地区認定こども園整備事業 | 10.6億円 |
| 消防本部庁舎建設事業 | 構成市町村と協議中 |
| 子育て保健複合施設整備事業 | 協議中 |
| 小浜保育所整備事業 | 協議中 |
| クリーンセンター建設事業（負担金） | 構成市町村と協議中 |



3. 今後の財政運営のポイント（歳入）

人口減少や社会情勢の変化（物価高騰）等により、税収が先行き不透明な中、歳入はより厳しい視点で。自主財源の確保が肝要。

（1）堅実な財源，自主財源の確保

- 堅実な財源あつての財政の安定化。
- 産業振興による「稼ぐ力」
- 仕事による「市民一人一人の所得向上」
- ふるさと納税・ネーミングライツ
- 受益者負担の設定・更新 等々



税収の安定的な確保
新たな財源の創出

（2）事業財源の裏づけ，有利な補助事業・起債の活用

事業計画と合わせ，充当財源の検討（財源の裏づけ）は必須。

（3）施設の維持管理と運営に対する財源の確保

施設が存在する限り維持管理費は必須（恒久の一般財源）。コストが増加する中，施設の活用はもとより「受益と負担の公平性」の観点から，行政サービスの提供と維持管理費の負担の考えを整理し，適切な使用料の在り方も検討していく必要がある。

4. 今後の財政運営のポイント（歳出）

人件費・扶助費・公債費（義務的経費）の歳出に占める割合が引き続き高く，後年度に大型事業を予定している中，歳出においては，より一層の精査が必要。

（1）既存施策の見直しも必須

ハード・ソフトとともに，新規だけではなく，既存・継続も含め精査していくべき。
スクラップの検討（事業のあり方・継続の必要性等を見直す）
サンセットの徹底（事業の終期を必ず設定する）
既存施設の今後の在り方・利活用方法・必要性も整理することが必要。

（2）新規施策・新しい施設整備の必要性、管理体制の見直し

時代に則した対応・対策・展開が必要。
（既存の見直し，必要なものを拡充，そして新規の展開へ）
施設整備は，まずは既存施設の利用実態，人口減少，官民連携（PPP・PFI）など将来を見据え，**既存施設の整理統合，新しい施設の必要性を議論**していくべき。

（3）働き方改革の推進

ニーズに則した事務改善，外部委託，職員の創意工夫・デジタル推進による事務効率化の結果，職員負担の軽減，人件費の抑制につなげる。

1. 施政方針のポイント

- 「奄美市『未来づくり』総合戦略2025」を「奄美市未来計画」の重点プロジェクトと位置付け、「しあわせの島」の実現を目指す。
- 住用・笠利地域創生戦略の実行一年目。
- 奄美市市制施行20周年を市民の皆様と共に祝いし、将来に向けて力強く歩み出す契機とする。
- 令和7年度を表す漢字は「実（みのる）」。さらなる実を結ぶ一年となるよう実行・実践。

2. 令和7年度予算のポイント

- 予算総額は524.4億円で過去最高（前年度比+6.6%、一般会計 349.9億円+特別会計 116.8億円+企業会計 57.7億円）。
- 歳入 市税 41.6億円（対前年度比+6.5%）、普通交付税 123億円（対前年度比+4.1%）
- 歳出 各性質とも増加。普通建設事業費（+26.9%）は認定こども園や宇宿貝塚史跡公園観光拠点再整備等による増。
物件費（+17.1%）は学校ICT整備GIGAスクール機器購入等による増。
積立金（+132.2%）は認定こども園の償還財源を減債基金に積み立てるもの。

3. 主なマニフェスト関連事業

次世代を育む好循環を生み出す「そだてる」地域づくり

- 子ども医療費の窓口負担をゼロ（拡充）
- 非課税世帯の給食費無償化（新規）
- 保育体制魅力向上総合対策事業（新規）
- 住用・笠利地区認定こども園整備事業（継続）
- あまみ不登校対策プロジェクト（新規）
- 宇宿貝塚史跡公園観光拠点再整備事業（新規）
- 友好都市交流促進事業（新規）
- eスポーツ普及啓発事業（新規）
- シマの遊び（なんこ）継承・普及事業（新規）

持続可能に「かせぐ」地域づくり

- 奄美空港県外就航路線利用促進事業（新規）
- 「食と農の総合戦略」策定（新規）
- あまみフルーツアイランド確立事業（新規）
- 奄美漁協荷捌き施設機能移転事業（新規）
- マングローブパークリニューアル整備事業（継続）
- 土盛海岸周辺環境整備事業（新規）
- 稼ぐ力の向上に向けた創業・事業拡大支援事業（R6繰越）

R6「市民と市長とのふれあい対話」に、多く市民の皆様にお越しいただきまして、誠にありがとうございました。皆様からいただきましたご要望等とその対応状況につきましては、奄美市HP（右記QRコード）に掲載しておりますのでぜひご確認ください。



安心して、ゆたかにくらせる「守る」地域づくり

- 奄美市医療懇話会（新規）
- 带状疱疹ワクチン接種費用の一部助成（新規）
- 認知症のみなさんとゆらってまちづくり事業（新規）
- 集落防災訓練モデル事業（新規）
- 食料品ストック機能強化支援事業（新規）
- 民有地危険木伐採費用助成金（新規）
- 奄美・沖縄世界自然遺産地域交流事業（新規）
- 世界自然遺産に関する新たな財源導入準備事業（拡充）
- 奄美大島自然保護協議会大阪・関西万博出展（新規）

市民に身近で頼りになる基盤づくり

- 物価高騰対策事業（R6繰越）
- みんなの公園みんなで育てるプロジェクト（新規）
- 郵便局へのマイナンバーカード窓口拡大事業（新規）
- みんなのしまさばくり応援事業（新規）
- 市制施行20周年記念イベント等補助事業（新規）
- 「あまみ未来会議」事業（新規）
- 全庁業務量調査・業務分析・BPR支援業務（新規）

奄美市公式LINE（ライン・右記QRコード）大好評！！
未登録の方はぜひご登録ください！！

